

亞麻仁粉
水

各適宜

右爲紙劑百頭ノ羊ニ與フ

失荷兒陪士

原因 本病ハ家畜中豚及ヒ犬ニ確認セラレタルモノニシテ豚ニ在リ
テハ營養不良、困舎ノ濕潤、運動不足等ハ之カ素因トナル
療法 動物ノ住所ヲ改良シ食餌ヲ一變シ滋養淡泊ナルモノヲ給シ苦
味收斂藥ヲ與フヘシ

第十二章 皮膚病

濕疹

濕

原因 濕疹ノ原因ハ種々アレトモ先ツ之ヲ外因、内因ニ區別ス甲ハ機
械的、化學的、溫熱的及ヒ傳染毒等ノ外來刺戟ニ由リテ發シ乙ハ食物、發
疹、水銀、ヨード、鉛ノ中毒、消化不良等ニ由リテ發ス

療法 第一ニ原因ヲ除去シ清潔消毒ヲ行フヘシ局處ノ療法ハ皮膚ノ
感覺、箇體ノ特異性、動物ノ種類ニ由リテ異ナレトモ急性ノモノニハ種
種ノ散布藥、油劑、軟膏ヲ用キ慢性ノモノニハ木タール、石鹼、硝酸銀ノ如
キ刺戟藥又ハ腐蝕藥ヲ用キルヘシ

處方

軟石鹼 各三〇〇
 木タール 右患部塗布用
 赤色酸化汞 一〇
 豚脂 三〇〇
 右爲軟膏毎日二三回塗布
 昇汞 〇・一
 蒸餾水 一〇〇〇
 右患部塗布用
 ヨードフォルム 二〇
 酸化亞鉛 各五〇
 澱粉

右患部ニ撒布ス

次硝酸蒼鉛 一分
 硫酸銅末 一分
 アラビアゴム末 八分
 右撒布用(馬)
 木炭末 六〇
 タンニン酸 二〇
 ヨードフォルム 二〇
 右混和撒布用
 ザリチール酸 二〇
 酸化亞鉛 五〇
 石松子末 五〇
 右研和撒布用

ヨードフォルム 五〇
 グリセリン 一〇〇
 右爲溶液患部ニ外用
 鹽酸コカイン 〇・五
 ワゼリン 一〇〇
 右爲軟膏患部ニ塗擦ス
 白降汞 一分
 酸化亞鉛 五分
 ワゼリン 一〇分
 右背部濕疹ニ塗布ス
 酸化亞鉛 五〇
 澱粉 二〇〇
 右粉劑トナシ患部ニ撒布ス(犬)

木タール

軟石鹼

酒精

右爲塗布用(犬)

クレオリン

軟石鹼

酒精

右爲擦劑慢性濕疹ニ用フ(犬)

クレオリン

カリ石鹼

酒精

右軟膏トナシ患部ニ塗布ス(犬ノ鱗屑濕疹)

屑濕疹)

頑固慢性症ノ處方

亞鉛華軟膏

四〇.〇

右毎日三四回痲皮ヲ洗除シタル後

ニ塗布ス

硫酸銅

五.〇

蒸餾水

一〇〇.〇

右爲溶液一日三四回痲皮洗滌後塗

布

酸化亞鉛

二五.〇

ワゼリン

一〇〇.〇

ザリチール酸

二〇.〇

水疝、膝靨及ヒ飛靨

右痲皮洗除後ノ塗抹料

ナフタリン

一〇.〇

タンニン酸

四〇.〇

右撒布用

亞砒酸

二乃至五.〇

甘草末

三〇.〇

アルテア根末

水

各適量

右爲十九朝夕一丸宛ヲ與フ(馬)

原因 ハ塵埃、泥土、寒氣等ノ刺戟ニシテ雨後、融雪後ノ泥濘ハ特ニ之ヲ誘發ス

療法 病期ニ由リテ治療法ヲ異ニス初期ハ患部ヲ清潔、乾燥ナラシメ次硝酸蒼鉛ト澱粉トノ合劑一ト三ニテ散布シ分泌物アレバ乾燥、收斂、防腐ノ藥方ヲ處スヘシ分泌ナキトキハ石炭酸グリセリンヲ塗布ス

處方

右塗布用

ヨードフォルム

一〇.〇

タンニン酸

三〇.〇

右撒布用

ヨード丁幾

六〇.〇

グリセリン

五〇.〇

右塗布用

クレオソート

一〇.〇

酒精

六〇.〇

右塗布用

クロール亞鉛

一.〇

蒸餾水

一〇〇.〇

右同塗布料

昇汞

10.0

蒸餾水

100.0

右塗布用トス

木タール

5.0

牛ノ粕疹

原因 馬鈴薯粕ヲ多量ニ食スルニ因ル

療法 最簡ノ法ハ馬鈴薯醸滓ノ飼養ヲ廢スルニ在リ痒覺ヲ以テ發疹セルトキハ一%クレオリン溶液ヲ以テ洗滌シ甚タシク濕潤セル場合ニハ鉛糖水、明礬水ニテ洗滌シ後チヨードフォルム澱粉ヲ撒布ス

處方

クレオリン

1.0

豚脂

50.0

右爲軟膏塗布用

木タール

酒精

各25.0

右塗布用

ワゼリン
右爲軟膏塗擦ス
木タール

10.0

カリ石鹼
酒精
右塗擦用

各20.0

1.0

脫毛症

原因 脫毛症ノ原因ニ就テハ僅ニ其一斑ヲ知ルノミ而シテ皮膚ノ營養障害ヨリ之ヲ發ス

療法 諸種ノ刺戟藥ヲ用キテ毛ノ發生ヲ促スヘシ

處方

酒精

各50.0

カンタリス丁幾

10.0

右局處塗布用

酒精

100.0

ペルーバルサム

5.0

右一日一回患部ニ塗布

酒精

50.0

右犬猫ニ毎日塗布ス

ヨード丁幾

顆粒性皮膚炎

原因 本症ハ馬屬固有ノ寄生性皮膚病ニシテ一種ノ圓蟲ニ原因ス

療法 古來應用セシ方法種々アルモ皆效ヲ奏セス柳澤博士ノ實驗ニ據レハ顆粒小塊ヲ體外ニ除去スルヲ主唱ス

匍行疹

原因 斷髮菌ニ因ス

豫防法 患畜ヲ隔離シ廐舎ヲ清潔消毒シ蓐藁ヲ燒棄シ手入具及ヒ看護者ヲ別ツヘシ

療法 先ツ石鹼ト微温湯トヲ以テ痂皮鱗屑ヲ洗去シ左ノ處方ヲ塗布ス

處方

赤色酸化汞軟膏

七五〇

ザリチール酸

七五

右塗布用(馬)

右塗布用(犬)

クレオリン

一〇〇

昇汞

〇・五

パラフィン軟膏

一〇〇〇

グリセリン

二〇〇

右同上(牛)

右同上(犬)

白癬

原因 白癬菌ニ因ル

豫防法 患畜ヲ隔離シ廐舎ハ石炭酸水(一〇%)ヲ以テ消毒スヘシ

療法 匍行疹ノ療法ニ同シク油類、脂肪、グリセリン等ヲ用キテ痂皮ヲ軟化セシメクレオリン、昇汞、石炭酸等ノ消毒藥ヲ試用ス

處方

亞鉛華軟膏

六〇〇

クレオリン

六〇

右塗布用

硫酸銅

三〇

蒸餾水

一〇〇〇

傳染性膿疱性皮炎

原因 傳染性瘰癧菌ニ原因ス

豫防法 患馬ヲ隔離シ廐舎及ヒ馬具ヲ消毒スヘシ

療法 輕症ハ休役ヲ命シ患部ノ刺戟ヲ避クレハ醫藥ヲ要セスシテ治

癒ス重症ニハ潰瘍ニ防腐液ヲ施シ緩下劑利尿劑ヲ内服セシム

右同上

白降汞

五〇

ワゼリン

三〇乃至四〇〇

右塗布料

赤色酸化汞

五〇

豚脂

四〇〇

右同上

處方

醋酸鉛

一五〇

明礬

七五〇

樟腦

二〇〇

右混和爲散劑五〇〇〇ノ水ニ溶解

シテ外用

硫酸銅

六〇

蒸餾水

三〇〇〇

右洗滌用トス

疥癬

原因 傳染性皮膚病ノ一種ニシテ其主因ハ寄生蟲ニ由ルモ皮膚ノ不

潔管理ノ失當營養不良等ハ之カ誘因タリ

豫防法 患畜ヲ隔離シ廐舎及ヒ器具ハ熱瀋汁熱湯生石灰水石炭酸水

ヲ以テ消毒ス

療法 患部ノ毛ヲ剔去シ軟石鹼或ハ石炭酸グリセリンヲ塗布シ一時

間ヲ經テ微温湯ヲ注キ刷毛ヲ以テ痲皮ヲ洗去シ疥癬藥ヲ施スヘシ

處方

- 木タール 100.0
- 硫黄華 各100.0
- 綠石鹼 200.0
- 酒精 200.0
- 右混和シテ「タール軟膏トス(馬ノ疥)
- クレオソート 250.0
- 綠石鹼 100.0
- 酒精 500.0
- 右患部ニ塗擦ス(馬)
- 硫黄華 100.0
- 木タール 100.0
- 綠石鹼 200.0
- 酒精 200.0
- 右混和振盪シテ患部ニ用フ(馬)
- クレオソート 250.0
- 酒精 250.0
- 水 500.0
- 右爲溶液患部ニ刷毛ニテ塗布ス(牛)
- 流動蘇合香 100.0
- オリーブ油 80.0
- 右患部ニ塗布ス(牛)
- 苛性カリ 20.0

蒸餾水

- 右患部塗布料(牛) 100.0
- 粗製炭酸カリウム 二分
- 石灰 一分
- 水 五分
- 右浴劑トナス本劑ニ病羊ヲ浴セシ
- メタル後二十四時間ヲ經テ更ニ左
- ノ浴劑ヲ用フヘシ
- 煙草 一分
- 水 二分
- 右浴劑トナス(羊)
- クレオリン
- 酒精 各100.0

軟石鹼

- 右塗擦用(羊) 800.0
- 木タール 50.0
- 酒精 100.0
- 右塗擦用
- 粗製炭酸カリウム 300.0
- 石灰 60.0
- 水 900.0
- 右五日間ニ二回本劑ヲ施用スヘシ
- (豚)
- クレオリン
- カリ石鹼 各40.0
- 酒精 100.0

右塗擦用(犬猫)

硫化カリウム

五、〇

薬用石鹼

一〇、〇

蒸餾水

三〇〇、〇

右同上(犬猫)

硫黄華

五、〇

緑石鹼

一五、〇

茴香油

三、〇

右塗布用(猫)

クレオソート

一〇、〇

オリーブ油

一〇〇、〇

右混和外用(犬)

クレオソート

二五、〇

軟石鹼

一〇〇、〇

酒精

五〇、〇

右同上(犬)

亞砒酸

一、〇

明礬

一〇、〇

水

一〇〇、〇

右毎日一回塗布(犬猫)

硫黄華

一五、〇

炭酸カリウム

八、〇

ワゼリン

六〇、〇

右塗布用(猫)

酒精

三〇〇、〇

ペルーパーサルサム

三〇乃至六〇、〇

右疥癬薬トナス

酒精

二〇〇、〇

クレオリン

二〇、〇

ザリチール酸

四、〇

右同上

ナフトール

一分

ワゼリン

一分

右爲軟膏塗擦ス

ナフタリン

五、〇

豚脂

五〇、〇

右塗擦料

第十三章 傳染病

腺疫

腺

原因 腺疫ハ傳染毒ニ基因スル馬ノ急性傳染病ニシテ呼吸器粘膜ノ加答兒ヲ發シ其近傍ニ於ケル淋巴腺ノ化膿性炎症ヲ來ス

豫防法 患馬及ヒ疑ヒアルモノハ直チニ隔離シ廐舎ノ器具ハ充分消毒法ヲ行ヒ患馬ノ鼻漏亦消毒ヲ嚴ニスヘシ

療法 尋常ノ經過ニ於テハ攝生療法ニテ足レリ即チ病馬ハ清潔溫暖ノ廐舎ニ入レ通氣ヲ善良ニシ馬體ヲ溫包シ易化ノ食ヲ給シ鼻漏及ヒ眼ハ頻々清拭シ淋巴腺化膿セハ速カニ切開シ排膿スヘシ

疫

處方

クロールナトリウム 一五〇〇
 金硫黄 五〇〇
 杜松實末 二〇〇〇
 右爲散劑一食匙宛毎飼料ニ混ス
 人工カル、ス泉鹽 二〇〇〇
 甘草末 三〇〇
 亞麻仁粉末 二〇〇〇
 右散トシ一食匙宛毎飼料ニ混ス
 クロールナトリウム 一五〇〇
 吐酒石 一〇〇

牛ノ流行性感冒

亞麻仁末 各適宜
 水 各適宜

右爲散劑二回分服
 人工カル、ス泉鹽 各二〇〇〇
 茴香末 各二〇〇〇
 右爲散劑毎飼料ニ一食匙宛加フ
 金硫黄 三〇〇
 礶砂 五〇〇
 硫酸ナトリウム 二五〇〇
 甘草根末 一五〇〇
 右二時間毎ニ一食匙宛與フ

原因 一種ノ傳染毒ニ因ル

豫防法 健牛ハ病牛ヨリ隔離シ廄舎及ヒ器具ハ熱湯ヲ以テ洗滌シ次
 テ濃厚ナルクロール石灰水ヲ撒布シ寢糞排泄物ハ悉ク燒棄スヘシ
 療法 攝生法ニ注意シ惡風寒濕ヲ避ケテ寒冒ニ罹ラサル様注意シ清
 涼劑解熱劑健胃劑等ノ内服ヲ試ムヘシ

處方

アセトアニリド 二五〇
 右體溫四十度以上ニ達セシトキ清
 水ニ和シ頓服セシム
 稀鹽酸 四〇〇
 ゲンチアナ丁幾 五〇〇

酒精 五〇乃至二〇〇

右一日三回分服毎回三〇〇〇ノ清
 水ニ和ス
 硫酸ナトリウム 二〇〇乃至四〇〇
 硝酸カリウム 三〇〇
 チキタリス葉末 二〇〇

樟腦精

100

右研和一日量大便結、排尿遲滯、脈搏心動俱ニ微弱ナルモノニ與フ

右衰弱甚タシキ場合ニ皮下ニ注射ス

馬ノ流行性感胃

原因 傳染毒ノ本態未タ明カナラス

豫防法 病馬ハ健馬ヨリ隔離シ廢舎ヲ消毒スヘシ

療法 攝生ニ注意シ通氣善良ナル廢舎ニ入レ心力衰弱ニ對シテハ強

心劑ヲ與ヘ胃症ニ在リテハ蘆薈、重炭酸ナトリウム、クロールナトリウ

ムヲ用キ眼炎ニハ「アトロピン」(1%)ヲ點眼シ皮膚ノ腫脹アラハ刺戟劑

ヲ塗リ非常ノ熱ニハ解熱劑ヲ與フ

處方

醋酸カリウム

100

單舍利別

適宜

水

450

右一日三回分服

アンチピリン

150

アルテア根末

250

蒸餾水

適宜

右爲塊劑與フ

アセトアニリド

750

アルテア根末

水

各適宜

右爲塊劑朝夕三回ニ其三分一宛與

甘汞

50

アルテア根末

100

右爲砥劑與フ

阿片末

100

甘汞

100

甘草末

適量

右爲丸劑頓服(下痢)

樟腦精

5乃至25

右皮下注射トス

重炭酸ナトリウム

1000

蘆薈越幾斯

150

甘草末

適宜

右爲砥劑一日ニ内服

甘汞

10

重炭酸ナトリウム 七五〇
 タンニン酸 一五〇
 アルテア根末

水

右爲紙劑三分シ毎三時其一分ヲ與
 フ(下痢)

各適宜

犬瘟熱

原因 犬ノ觸接傳染病ニシテ傳染毒ノ本態ハ未詳ナリ寒冒不適ノ飼料乳汁ノ缺乏等ハ之カ素因トナル

豫防法 寒冒ヲ防キ善良ナル飼料ヲ與ヘ適宜ノ運動ヲ命シ犬房ハ換氣ニ注意シ賊風及ヒ雨水ノ侵入ヲ防クヘシ

療法 患畜ハ清潔溫暖ナル犬房ニ入レ食餌ニハ小片ノ生肉乳汁鶏卵等ヲ與ヘ對症療法ヲ施スヘシ

處方

アセトアニリド

各一〇

白糖

各〇五

右散劑五包ヲ作り一日ニ包宛與フ
 (解熱)

アンチピリン

二〇

蒸餾水

五〇〇

右爲溶液頓服(解熱)

キナ皮煎(五〇)

一五〇

稀鹽酸

一〇

單舍利別

二〇〇

右一日三回一茶匙宛與フ(解熱)

フェナセチン

二〇

白糖

アラビアゴム

各一〇

右蒸餾水適宜ヲ加ヘテ十九トナシ
 毎日一乃至二丸宛與フ(解熱)

炭酸アムモニウム

五〇

吐根浸(二〇)

二五〇

甘草舍利別

二〇〇

右混和毎三時一食匙ヲ大犬(小犬ニ
 ハ一茶匙)ニ與フ

稀鹽酸

一〇〇

甘草舍利別

二〇〇

蒸餾水

二〇〇〇

右混和毎三時一食匙宛與フ

大黃末 一〇〇
ドーブル散 〇、五
右犬ノ犬瘟熱ノ下痢ニ與フ

礮砂 三、〇

蒸餾水 一八〇、〇

甘草舍利別 二〇、〇

右一日二回一食匙乃至一茶匙宛與
フ(鼻漏過多、細小氣管枝炎)

鹽酸モルヒネ 〇、二五

蒸餾水 一〇〇、〇

甘草羔 一〇、〇

右毎三時一茶匙乃至一食匙宛與フ
(痛咳)

鹽酸アポモルヒネ 〇、三

苦扁桃水 一〇、〇

蒸餾水 一八〇、〇

右一日三回一食匙宛(痛咳)

稀鹽酸 五、〇

苦味丁幾 二〇、〇

水 三〇〇、〇

右一日三回半食匙乃至一食匙宛(健
胃劑)

甘汞 〇、〇五

阿片末 〇、五

乳糖 〇、一

右一日乃至二日間分服(下痢)

阿片丁幾 一〇、〇

アラビアゴム 一五、〇

茴香水 三〇〇、〇

右一日一茶匙乃至一食匙宛(下痢)

ズルフォナール 一〇、〇

右十包ヲ作り一日一包宛與フ(神經
症)

ブロームナトリウム 二五、〇

蒸餾水 二〇〇、〇

右一日三回一食匙宛與フ(神經症)

粗製酸化亞鉛 三、〇

澱粉 一五、〇

右爲粉末撒布ス(皮疹)

強直症

原因 破傷風菌ニ原因ス

豫防法 創傷ノ消毒ヲ嚴行シ又廢舎ハ嚴重ニ消毒スヘシ

療法 特效藥ナシ近時強直血清ヲ應用スルモ初期ニアラサレハ效ナ

シ患畜ハ閑靜ノ暗廄ニ入レ安靜ニシ亞麻仁灌腸ヲ行ヒ鹽酸モルヒネ

ノ皮下注射、抱水クロラールノ灌腸ヲ行フヘシ

處方

抱水クロラール 100.0

亞麻仁煎汁 適宜

右一日二回灌腸(馬)

ブロームカリウム 150.0

右三包ニ分チ毎三時一包宛半リ

トルン水ニ溶解シ灌腸ス(馬)

鹽酸モルヒネ 0.2

蒸餾水 20.0

右爲溶液四回ニ皮下注射ス(中等大ノ犬)

馬痘

原因 馬痘ハ主トシテ繫部稀ニ唇、鼻及ヒ眼ニ發シ傳染毒ニ原因ス

療法 豫防法ヲ行ヒ攝生ヲ主トシ合併症ニハ對症療法ヲ施ス

處方

ザリチール酸 3.0

豚脂

80

ラノリン

300

右爲軟膏局部ニ塗布ス

クレオリン

40

酸化亞鉛

40

豚脂

400

右軟膏トシ局部ニ塗布

牛痘

原因 傳染毒ハ固性ニシテ羊痘ノ如ク揮發性ナラス故ニ病毒ハ毀傷

アル皮膚ニ觸接スルニアラサレハ感染セス

療法 豫後佳良ナルヲ以テ治療ヲ要セス

惡性加答兒熱

原因 原因未タ明カナラサレトモ恐ラクハ濕潤、不潔、通氣不良ノ廐舎

ニ生スル瘴氣ナラント曰フ

豫防法 患畜ハ隔離シ牛舎ハ充分ニ消毒シ下水ヲ疏通シ常在地方ニ在リテハ不滲透質ノ牀ヲ設ケ鼻漏ハ頻々拭淨消毒スヘシ

療法 通氣善良ノ牛舎ニ移シ頭部ヲ冷湯シ「テレピン油、木タール、石炭酸、クレオリン等ノ吸入ヲ行ヒ高熱ニハ解熱劑ヲ與ヘ衰弱スレハ強心劑ヲ投スルカ如キ對症療法ヲ施スニ過キス

處方

- 石炭酸 稀鹽酸 三〇、〇
- 酒精 各五、〇
- 水 五〇、〇
- 右爲溶液一日三分服
- キナ皮煎 五〇、〇
- 右頓服

幼獸赤痢

原因 本症ハ犢ニ屢發シ一種ノ傳染毒ニ由ル

豫防法 病畜ヲ隔離シ廢舎ヲ消毒シ乳房ハ常ニ洗滌シテ清潔ナラシムヘシ

療法 先ツ緩下劑ヲ投シ次テ大黃、阿片、タンニン酸、ザリチール酸ノ如キ止下劑ヲ投スヘシ

處方

- 甘草 一五、〇
- 阿片末 三〇、〇
- 甘草末 適宜
- 右爲散劑一日二回分服(犢駒)
- 阿片末 〇、三乃至一、〇
- アルテア根末 二乃至五、〇
- 水 適量
- 右爲五丸三時間毎ニ一丸ヲ與フ(駒)
- タンニン酸 一五、〇
- 甘草末 三〇、〇
- 單舍利別 適宜
- 右同上(駒)
- 阿片末 〇、三乃至一、〇
- 大黃末 二乃至五、〇
- 炭酸マグネシウム 一、〇

阿片丁幾

五〇〇

成獸赤痢

原因 本症ハ牛ニ於テ屢見ル疾病ニシテ一種ノ傳染毒ニ基ツキ寒胃、飼養ノ失宜、勞働過度、變敗ノ食物等ハ之カ素因トナル

療法 患畜ニハ滋養軟和ノ食ヲ給シ内服ニハ粘滑劑、阿片(一〇乃至二五、〇)硫酸鐵(一〇乃至二五、〇)タンニン(一〇乃至二五、〇)ノ如キ收斂劑ヲ與ヘ腹部ヲ摩擦シテ刺戟劑ヲ塗ルヘシ

處方

亞麻仁煎汁

右一日三回分服

一五〇〇

番木鱉末

右爲散劑ニ乃至三食匙ノ、アラシテ

番木鱉末

一〇〇

赤葡萄酒

三〇〇〇

右混和三時間毎ニ一食匙宛與フ

媾疫

原因 本病ハとりぱのぞーま、忍くいべるだむト稱スル原始動物ニ原因スル慢性傳染病ナリ

豫防法 本病ニ罹リシモノハ恢復後ト雖モ蕃殖用ニ供スヘカラス其他獸疫豫防法ヲ行フヘシ

療法 眞ノ初期ニ於テ昇汞水、クレオリン水ヲ施セハ治スルコトアルモ既ニ麻痺ヲ發スレハ不治症トナル故ニ末期ニ至レハ消毒藥若シクハ收斂劑ヲ以テ對症療法ヲ施スニ過キス

處方

クロールナトリウム

二〇

グリセリン軟膏

一五〇

アルテア根末 適量
 右一丸トナシ其三十丸ヲ作り朝夕
 一丸宛與フ
 昇汞

瘡疹

原因 本病ハ良性定型的ノ傳染性水泡ニシテ其傳染毒ハ未タ明カナ
 ラス

處方

明礬 各三〇
 硫酸鐵 各三〇
 硫酸銅 各三〇
 右散布劑又ハ溶液トナス

鹽酸 各三〇
 蒸餾水 一〇〇〇
 右爲溶液局處洗滌用

硫酸銅 各六〇
 硫酸亞鉛 各六〇
 醋 七〇〇
 醋酸鉛水 一三〇
 右混和塗布ス

血斑病

原因 未詳ノ傳染毒ニ由リテ發ス
 療法 潤大ノ廢舎ニ放チ自由ニ運動セシメ嚙下困難ナルトキハ燕麥
 粉、絞汁ノ如キ流動食ヲ與ヘ皮膚ノ腫脹甚タシケレハ明礬一〇〇、〇醋
 酸鉛二〇〇、〇ヲ水四〇〇、〇ニ溶解シ卷法ス内服ニハ甘汞、ザリチ
 ル酸、タンニン、醋酸鉛ヲ用フ

處方

ヨード 〇、五
 ヨードカリウム 二五
 蒸餾水 一〇〇〇

放線菌病

右爲溶液氣管内注入(馬)
 硼酸 二〇〇
 キナ皮 五〇〇
 右爲紙劑一日ニ内服(馬)

原因 本病ハ星菌ニ原因ス

療法 外部ノ菌腫ハ外科手術ニ由リテ除去シ咽喉其他深部ニ存スルモノハ「ヨードカリウム」ノ内服ヲ特效薬トス不治ニシテ瘦削セントスルトキハ速ニ屠場ニ送ルヘシ

處方

ヨードカリウム

六〇

水

右混和毎日内用セシム

五〇〇

家禽實扶的里

原因 本病ハ家禽虎列拉ニ次テ頻發スル恐ルヘキ傳染病ニシテ其本源ハ未タ明カナラス

豫防法 最モ緊要ニシテ病禽ト健禽トノ隔離ヲ行ヒ斃禽及ヒ之カ排

泄物ハ燒棄シ鶏舎ハ充分石炭酸クレオリン、昇汞水ヲ以テ消毒洗滌スヘシ

療法 千倍乃至二千倍ノ昇汞水又ハ一乃至二%ノクレオリン水ヲ以テ局處ノ消毒ヲナシ呼吸道ニ疾患アレハ木タールノ薰蒸法ヲ行ヒ腸病ニハ「タンニン酸」又ハ「硫酸鐵」一乃至二%溶液トナシ又ハ「バター」及ヒ麵麩ヲ混和シ二九トナスヲ用キルヘシ

處方

クロール酸カリウム

七五

ザリチール酸

一五

グリセリン

一五〇

水

一三〇〇

右溶液トナシ局處ニ塗布ス

クレオリン

二〇

グリセリン

酒精

各五〇〇

右口内洗滌用

家禽虎列拉

原因 本病ハ家禽ノ疾病中最モ恐ルヘキ傳染病ニシテ一種ノ細菌ニ
原因 ス

豫防法 豫防法ヲ嚴重ニシ健禽ハ病禽ヨリ隔離シ禽舎其他ノ器具ハ
 沸湯又ハ熱滷汁ヲ以テ充分洗滌シ後チ千倍ノ昇汞水又ハ三%石炭酸
 水、クレオリン水ヲ注クヘシ屍體及ヒ排泄物ハ悉ク燒棄スヘシ
療法 治療法ナシ

傳染性膿疱口炎

原因 本病ハ純然タル觸接傳染病ニシテ其傳染毒ハ創傷ヨリ侵入ス
 ルモ唯、觸接スルノミニテモ感染シ又媒介物ニ由リテモ傳播ス

療法 特別ノ治療ヲ要セサルモ必要アラハ石炭酸三%クレオリン水
 ノ如キ防腐液ヲ以テ口内潰瘍ヲ消毒スヘシ

家 畜 處 方 錦 囊 附 錄

○ 家 畜 用 藥 量 表

藥 名	牛	馬	羊、山羊	豚	犬	猫	犢、駒
阿 仙 藥	五.〇〇	一.〇〇	一.〇〇	二.〇〇	一.〇〇	〇.二〇	二.〇〇
阿 片	二.〇〇	〇.五〇	一.〇〇	一.〇〇	〇.一〇	〇.〇〇	一.〇〇
阿 片 丁	七.〇〇	二.〇〇	三.〇〇	三.〇〇	〇.五〇	〇.〇〇	一.〇〇
阿 片 幾	二.〇〇	〇.五〇	一.〇〇	一.〇〇	〇.五〇	〇.〇〇	一.〇〇
ア ル テ ア 根	二.〇〇	一.〇〇	二.〇〇	二.〇〇	一.〇〇	〇.一〇	一.〇〇
ア 麻 仁	一.〇〇	〇.五〇	一.〇〇	一.〇〇	〇.五〇	〇.〇〇	一.〇〇
ア ラ ビ ア ヨ ム	五.〇〇	〇.五〇	一.〇〇	一.〇〇	〇.五〇	〇.〇〇	一.〇〇
亞 砒 酸	一.〇〇	〇.一〇	〇.〇一	〇.〇一	〇.〇一	〇.〇〇	一.〇〇

○各家畜藥品用量概算比較

馬	一〇	(二分)
牛	一五	(二分半)
羊、山羊	〇・五	(三分一)
豚	〇・二	(五分一)
犬	〇・一	(十分一)
猫	〇・〇五	(二十分一)

〔備考〕

四歳乃至五歳ヨリ全量
 二歳乃至三歳四分三量
 一歳乃至二歳二分一量

犬猫ハ一歳半乃至二歳ヲ成長期トス

○分量

瓦量(攝氏四度ノ水一立方仙米ノ量ヲ一瓦ト定ム)

一ミリ瓦	〇、〇〇一	千分一瓦
一センチ瓦	〇、〇〇一	百分一瓦
一デシ瓦	〇、一	十分一瓦
一瓦	一、〇	一瓦
一デカ瓦	一〇、〇	十瓦
一ヘクト瓦	一〇〇、〇	百瓦
一キロ瓦	一〇〇〇、〇	千瓦

○グラム量ト本邦重量トノ比較

一ミリグラム	〇、〇〇一	〇、二六七毛
一センチグラム	〇、〇〇一	〇、二毛六七
一デシグラム	〇、一	〇、二厘六毛六七
一グラム	一、〇	〇、二分六厘六毛
十グラム	一〇、〇	〇、二匁六分六厘六毛
百グラム	一〇〇、〇	〇、二十六匁六分六厘六毛
千グラム	一〇〇〇、〇	〇、二百六十六匁六分六厘六毛

○オンス量

二〇氏(グレーン)

一〇(スケール)プル

一 勺 〇、〇一八〇四リットル
 一 合 〇、一八〇三九リットル
 一 升 一、八〇三九一リットル
 一 斗 一八、〇三九〇七リットル
 又
 一センチリットル 〇、〇〇五五四升

〇本邦液量

一 匁 一匁〇餘
 一 匁 七匁五分五厘
 一 匁 百二十匁九分五厘

三〇
 八匁
 一二匁
 又
 一 匁 〇、〇六
 一 匁 四、〇
 一 匁 三〇、〇
 一 匁 三六〇、〇
 又
 一 匁 一厘七毛餘

一匁(ドラム)
 一匁(オンス)
 一匁(ポンド)

- 一 デシリットル ○、〇五五四四升
- 一 リットル ○、五五四三五升
- 一 デカリットル 五、五四三五二升
- 一 ヘクトリットル 五五、四三、五二、四升

○匙量

畜主自ラ患畜ニ投與スル量ニシテ甚タ不同ナレハ其劇毒藥ナラサル
場合ニ限リ許スヘキモノトス

- 一 刀尖 約一瓦
- 一 茶匙 四瓦
- 一 食匙 十五瓦

- 一 小兒匙 八瓦—十瓦
- 一 酒杯 百瓦—百二十瓦
- 一 水盞 百八十瓦

○滴量

通常左ノ比例ニ於テ大約一、〇ニ對當スルモノトス

- 水及ヒ稀鹽酸類 十六滴乃至二十滴
- 丁幾、脂肪油、重揮發油類 二十滴
- エーテル精、クロフォルム、揮發油類 二十五滴
- エーテル 五十滴

家畜處方錦囊

大尾

明治四十二年二月十一日印刷
同年同月十八日發行

家畜處方錦囊

正價金八拾錢

纂著者

渡邊 閑一郎

發行者

大柴 四郎

印刷者

野村 宗十郎

印刷所

株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地

發行所

東京市神田區神田鍛冶町二十二番地
朝香屋書店

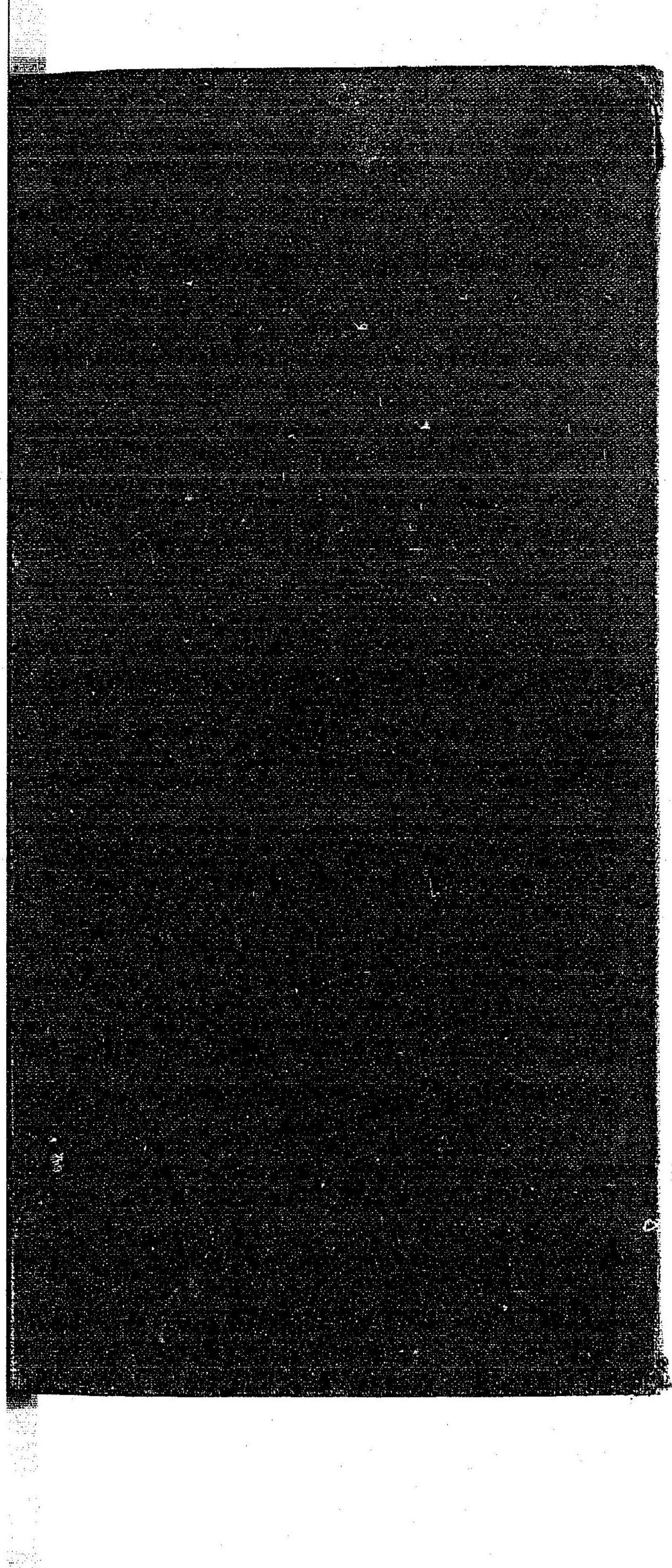
電話本局一六三三番
振替貯金第二四三番

賣 捌 書 店

東京市京橋區南傳馬町二丁目
 同 日本橋區通三丁目
 同 神田區表神保町
 同 三崎町
 大阪市心齋橋筋一丁目
 同 博勞町
 京都市寺町通二條下ル
 盛岡市肴町
 仙臺市本材木町
 金澤市片町
 名古屋市西區本町三丁目
 熊本市新町
 盛岡市材木町

有 鄰 堂
 九 善 堂
 東 京 堂
 長 隆 舍
 松 村 九 兵 衛
 丸 善 支 店
 若 林 茂 一 郎
 佐 々 木 仙 助
 佐 政 商 店
 宇 都 宮 書 店
 丸 善 書 店
 長 崎 次 郎
 東 山 堂

17
416



064680-000-3

17-416

家畜処方錦囊

渡辺 閑一郎/著

M42

CCD-0112



17
416

17
416

